

なんもく 山村ぐらし通信

2013 (平成25) 年8月号
通巻第6号版 (夏季号)

発行責任者: 神戸 広
問合せ 南牧村役場
企画情報課
電話 0274-87-2011 (代表)

紙面編集: 小川 ひろき
発行元: 南牧山村ぐらし
支援協議会

www.nanmoku.ne.jp/~sanson



空家情報を ご提供ください

現在、南牧村に移住を検討している来村者の方に紹介できる空家情報が不足しています。空家所有者の方や、情報をお持ちの方からのご理解とご協力をお待ちしております。

空家の有効利用にご理解とご協力を！

【受付窓口】 役場企画情報課 (〇二七四一八七二〇一一)

七月二十日土曜日に開催された「ぐんま田舎暮らし相談会」は、休暇をとって南牧に泊まりに、本協議会からは会長の金田鎮之が参加して来ました。今までは銀座の「ぐんまちゃん家」での開催でしたが、今回はJR有楽町駅に近い「東京交通会館」へと替えての移住相談会で、南牧村を含め、桐生・沼田・上野等八団体が参加しました。

来場者数は四十数組、五十有余人。立地のせいか、宣伝が効いたのか、結構な数ではないかと思えます。その中へ、子育て世代の住民として少しでも南牧村を伝えられればと思いい、役場担当者二名と会場へ乗り込みました。

結果、フタを開けてみれば南牧村ブースには六件七人の相談者に来ていただきました。孫のために・退職後に・自然にあって・畑仕事を手伝いたい…

移住相談会 in 有楽町

空家所有者の皆様は、荷物等の相談もおうかがいします。役場企画情報課へお問い合わせください。

このような相談会を含め、年間に何件もの移住に関する相談を頂戴しておりますが、それらのご要望に充分にお応えできるだけの空家情報が不足気味です。たくさんある村内の資産を生かした、作り物ではない活性化を目指してまいります。

移住相談に答える南牧村ブース (2013-7-20)



25年度4~6月空家問合せ件数

電話による問合せ計29件
(4月 7件)
(5月 10件)
(6月 12件)
メールによる問合せ計1件
(4月 0件)
(5月 0件)
(6月 1件)
来村空家物件訪問計14件
(4月 5件)
(5月 4件)
(6月 5件)
H P 空家情報アクセス計4742
(4月 1976件)
(5月 1367件)
(6月 1399件)

24年度空家問合せ総件数

電話による問合せ (総計 143件)
メールによる問合せ (総計 31件)
来村空家物件訪問 (総計 27件)
H P 空家情報アクセス (総計 12,022件)

間取りや設備等の状況や、どの程度補修すれば実際に住めるかといった、実際に住むとしたらどのようなかという資料を作ります。本協議会では、村内への移住促進のためのお手伝いを行っております。怪しい者ではございませんので、見かけましたらお声掛けください。(空家調査班)

空家調査

随時実施しています

六月から七月にかけて、所有者の了解を得られた四軒の空家について、役場担当者と共に内部調査をしてみました。多少の傷みはあるものの「即入居可」と言える物件でした。

大日向の火とぼし

火とぼし

8月14日・15日



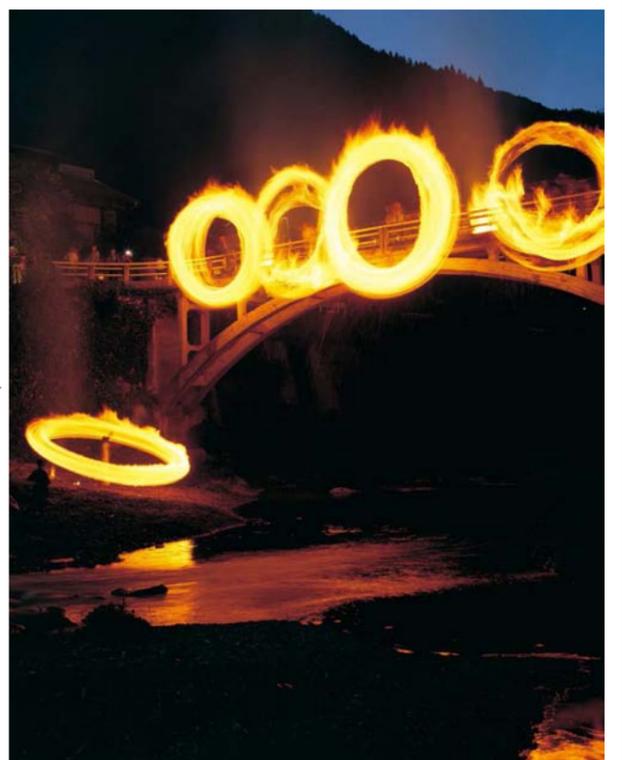
南牧村マスコット「なんしいちゃん」

現在、子供の時祭りを経験した者が、お盆に帰省し、参加し

祭りの起源は、大麦を中心とした豊年満作と先祖供養であり、大日向地区の子供、大人総出の一大イベントです。しかしながら、近年本村では大麦、小麦とも生産しておらず、また、高齢化の波に押し寄せ、祭りを続けることは困難となり、存続の危機にあります。

本村には昔から田んぼは一枚もなく、主に大麦を生産していました。また、祭りの最後には安養寺の庭に集まり皆で念仏を唱えます。このことからこの

南牧村大日向地区の伝統行事「火とぼし」は、四〇年以上の歴史があり、毎年八月十四日、十五日の両日に行われます。この祭りは、麦わらを直径三〇センチ以上の大きさに束ねそれを長いわら縄でくくり、火をつけて振り回す、その炎は円を描き、その様は勇壮でとても幻想的です。県内外からのアマチュアカメラマンでこったがえします。



祭りでの子供の役割は、麦わらで作った背丈以上の松明を担いで火とぼし山に登り、火をともしながら山を下ることです。笛や太鼓の音色を子供に継承していくことも必要となります。この祭りは、本来大日向地区の人だけしか参加できませんでしたが、他の地域の方や飛び入りでの参加も許可されています。最近祭りの準備を含めボランティアで参加したり、存続のための人的支援やアイデアもいただいています。まだ、この祭りを見たことのない人、興味のある方は是非一度足を運んでいただき、また、参加いただければ幸いです。

本村に素朴な祭りですが、南牧村の文化です。タイムスリップした感覚を体験できます。(安養寺 住職 長谷川最定)



この藁をさらに束ねて縄をかけ、火をつけて回します



子供たちは橋の下で回します

明治三十四年に現在の民俗資料館の場所に校舎が建った羽沢尋常小学校。その後、昭和二十二年に六三三制となり尾沢村立尾沢小学校と改められ、その頃には全校児童約五〇〇名を擁していました。しかし人口減に伴い児童数も減少し、月形小学校と合併することで、平成六年に閉校となりました。

現在では南牧村民俗資料館として、村内外へ歴史を伝える施設として利用されています。



尾沢小学校 (昭和49年)

タイムマシン〜なんもく号

懐かしの校歌・尾沢小学校編

流れて やまぬ せせらぎの
やさしいしらべ ききながら
心すがるく はぐくめば
すんだ ひとみの 美しさ
ほがらかに ああ ほがらかに
のびる 尾沢の 小学生

はるかな空に そそりたつ
荒船山を あおぎつつ
雲よ 光よ この窓よ
かわす ほほえみ なごやかに
ひとすじに ああひとすじに
学ぶ 尾沢の 小学生

つたえも ゆかし このにわに
あらたな いぶき みにうけて
花と かおれる なまびやの
のぞみ はてなき あおぐにも
はればれと ああ はればれと
はげむ 尾沢の 小学生

県境のきびしい風土に耐え、先人たちは地域共同体となって農山村固有の文化を形成しつつ生活を営んできました。特に峠を結んで戦国期から江戸時代にかけて信州との人馬往来により栄えた当地は「西毛文化の発祥の地」ともいわれています。

り、村の歴史と伝統文化を証する唯一の文化財でもあります。多くの家庭では、それらの道具等が不要物として廃棄処分されたり他の地域へ流出したものが少なくありません。しかし村民の協力により、多種多様な品々が保存・展示されています。

域の特産でもありました。現在は、村内から集められた約四千点の展示品を公開しています。展示品のうち、生産生業用具一〇三一点が国の登録有形民俗文化財に、養蚕・繰糸・機械用具三二九点についてはぐんま絹

尾沢小学校の閉校舎の現在

南牧村民俗資料館

しかし、時代の流れと共に過疎化が進み、農山村特有の有形無形の文化も次第に消滅してきてきました。

それらは《ふるさと南牧の文化》であり、遺産の収蔵庫的役割を担っています。

民俗資料館は生活用具をはじめ、農耕、林業、生産生業、教育文化、芸能、行事等々すべての分野にわたりますが、特に、砥石・養蚕・和紙・蒟蒻等は地

かつて生活の知恵・技術を駆使し、守り伝え、発展してきた農耕、林業、生産生業等の道具は過ぎし日の貴重な遺産であ

め、農耕、林業、生産生業、教育文化、芸能、行事等々すべての分野にわたりますが、特に、砥石・養蚕・和紙・蒟蒻等は地

産品にも指定されています。懐かしい生活用具を見に行ってみましょう。



新会長挨拶

南牧山村ぐらし支援協議会会長

金田鎮之

空き家に関しての当協議会の活動において、村民の皆様及び所有者の皆様並びに関係行政機関の多大なるご理解とご協力にこの場を借りて感謝申し上げます。この春より会長になりました金田です。まだまだ未熟ではありますが、様々なお知恵とお力を拝借し、少しでも空き家の利活用につながるよう努めますのでよろしくお願ひします。

さて、前年度迄を振り返りますと、当会の活動は、物件の調査、ホームページによる広報活動、そして、この「山村ぐらし通信」の発行、移住相談会への協力等、分担を決め、事に当たってまいりました。今回、更に深化すべく体制を作り、これから臨んでいきたいと思ひます。この会の活動が南牧村の活力の一助になれば幸いです。

資料館の概要



古民家復元コーナー



教育文化コーナー

村立尾沢小学校のあったこの敷地は、戦国期の山城跡であり江戸時代は武家屋敷でした。明治初期の学制と共に学校が創立し、地域住民に支えられて教育文化の拠点として、百二十年の歴史と伝統を築いてきました。昭和十年代から三十年代には五〇〇名もの児童が在籍、遠くは県境をまたぎ馬坂や広川原から四丁の道程を一時以上かけて通学する児童もいましたが四十年代に入ると急激な過疎化現象により児童数も激減。平成六年三月の閉校時には二十四名となり、月形小学校と統合になりました。

平成八年に南牧村生涯学習センターとなり、一部民俗資料館として発足。平成二十四年四月南牧村民俗資料館として名称変更しました。

イワナの炭火焼きに冷えたビール、川面に涼み一息いれていると「まもなく、上越線を蒸気機関車が通ります」とのアナウンスが流れた。しばらくすると利根川渓流の対岸でさほど遠くはない、目の線にすっかり入る高台を水上駅方向に蒸気をモクモクと吹き出してゆつくりと走っていく、まるで絵本をみている様な風景に懐かしさと粋な感動を味わった。

道の駅「水紀行館」の館長さんは吉岡氏、彼は、ある公的機関を定年退職されたのち、顧われて館長に就任された方である。

館内の施設等を細かく説明いただきながら案内いただいた。クライミングホールや淡水魚水族館、ドクターフィッシュコーナーなど子供や大人も楽しめる設備が整っている。

売店の「満店横町」は、地元中心の農産物や木工加工品、加えて群馬県内の銘柄食品等が豊富に陳列されている。この広い売店が一人の女性担当者に任か

されているとのことで、民営の徹底した管理に納得した。同時に「みなかみ」のPRにも大変熱がこもっていた。

吉岡さんから、館に所属している温泉「湯テルメ」に是非とこの場で案内をいただいた。国道二九一号を下り、万木の中、源泉湯を味わった。

私の南牧ぐらしを話したところ、吉岡さんの娘さんがかつて南牧小学校の先生をされておられ、当時高崎から通勤していたとのことであった。

これもまた希な縁があったものだと思いつつ再会を約した。帰途中「みなかみ」の振興などに生念気に考えた。南牧村のこれからの考える母体は、「南牧山村ぐらし支援協議会」であろう、民主導のすばらしい団体だ。いわゆる鬼瓦である。

活動目標の第一段階はほぼ達成だろうし、現状把握は十分だ。さて、ここで立ちほだかる厚く高い壁が現れてはいないか。また一方、漂うマンネリはないかなど勝手に思いつくがらしている。

モチベーションが極めて大切だ。資金と人とモチベーション、イノベーションを惹起させるエネルギーだ。とは言ってもそうはうまくいかないのが現状であろう。一つ検討する点は、様々な考えを持つ村民の方々の中へ中広く深く、活動の意義と意識を求めてゆくことが、当面大事なことではなからうかなど、つらつら考えながら小沢に帰宅した。

あれこれ草

小沢在住・佐藤俊策さん寄稿

梅雨晴間、月夜野トネルを抜けて谷川岳を望みながら「みなかみ」に入っただ。国道二九一号線、町並は昔と少しも変わっていない。次第に記憶が甦る。

下叶屋の友人から「道の駅」を聞いていたので立ち寄った。

これまた希な縁があったものだと思いつつ再会を約した。帰途中「みなかみ」の振興などに生念気に考えた。南牧村のこれからの考える母体は、「南牧山村ぐらし支援協議会」であろう、民主導のすばらしい団体だ。いわゆる鬼瓦である。

活動目標の第一段階はほぼ達成だろうし、現状把握は十分だ。さて、ここで立ちほだかる厚く高い壁が現れてはいないか。また一方、漂うマンネリはないかなど勝手に思いつくがらしている。

モチベーションが極めて大切だ。資金と人とモチベーション、イノベーションを惹起させるエネルギーだ。とは言ってもそうはうまくいかないのが現状であろう。一つ検討する点は、様々な考えを持つ村民の方々の中へ中広く深く、活動の意義と意識を求めてゆくことが、当面大事なことではなからうかなど、つらつら考えながら小沢に帰宅した。